

自然

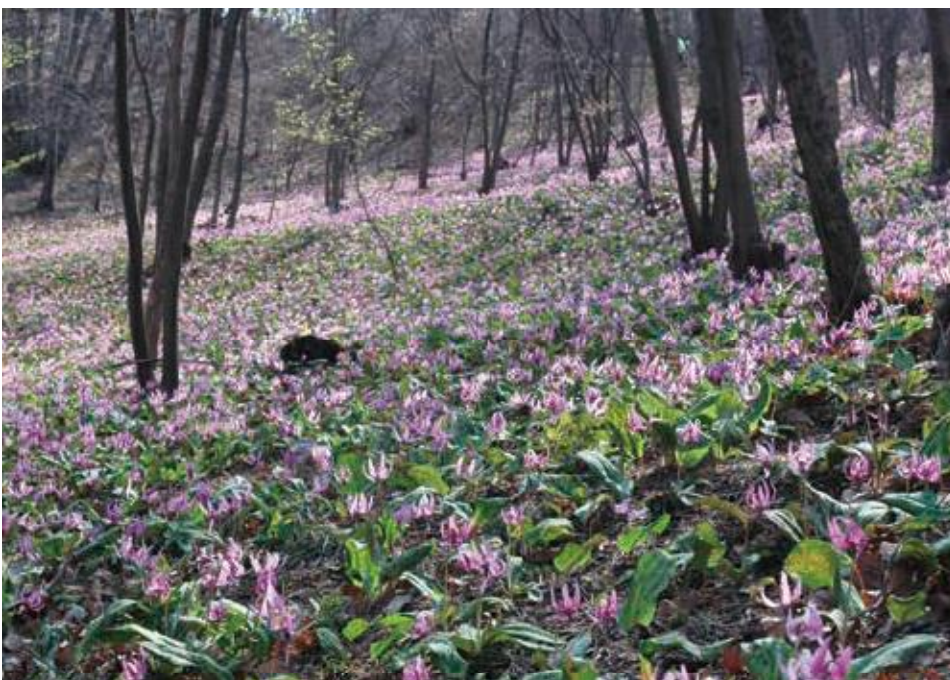
「人」と「自然」が共存できる
環境にやさしい社会を目指して

那

珂川町は、中央を町名の由来となった清流那珂川が流れ、八溝山系と呼ばれる山々に抱かれた自然豊かな町です。その自然が織りなす風景は、まさに「日本の原風景」といえる、地域が誇れる大切な宝物でもあります。

しかし、農林業における担い手不足などから、里山の荒廃が心配されています。そんな中、那珂川町の北部に位置する小砂地区が平成25(2013)年に県内で初めて「日本で最も美しい村」連合*への加盟を認められました。また、令和2(2020)年に那珂川町の3地域(旧大山田村、旧大内村、旧馬頭町)が県内第1号の指定棚田地域となったこともあり、自然環境の保全に対する機運が高まっています。

これを機に、さらに誇れる地域づくりに努め、「美しい自然と共生するまち」の実現を目指します。



カタクリ



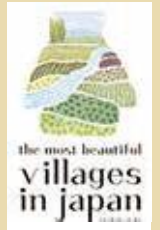
岩うちわ

カタクリ・岩うちわ

那珂川町にはカタクリ・岩うちわの大群生地があります。特に富山地区の岩うちわは日本一と言われています。どちらも一つひとつは可憐な花ですが、群生しているその様は圧巻です。

※NPO法人「日本で最も美しい村」連合

フランスの素朴な美しい村を厳選し紹介する「フランスの最も美しい村」運動に範をとり、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りながら、最も美しい村としての自立を目指す運動として2005年にスタートしました。



棚田オーナークラブ

棚田オーナークラブは、小砂village協議会が運営している農業体験活動です。美しい里山に囲まれた棚田で米作りを体験することができるため、毎年県内外から会員が訪れます。

会員は、自分で植えた、30kgのおいしい棚田米を受け取ることができます。また、里山環境保全や地域の活性化も目的としていて、どんぐり交流会や餅つき、陶器市等の各種イベント、交流会などに参加できます。農家の「かまど炊きばあちゃん」が炊いてくれる、おいしい「かまど炊きご飯」や地元食材を活用した料理が振る舞われるのも魅力の一つです。



[写真上左]クラブ会員で記念撮影

[写真上右]田植え風景

[写真下左]小砂village協議会で取り組んだ「小砂アイス」
小砂の棚田で生産された「ホタル米」を使用した、やさしい甘さのアイス(ビーガン対応)。アイスは道の駅等で売られ、売り上げの一部は棚田の保全に還元される



鮎釣り

那須岳から流れる清々しい豊かな水をたたえる那珂川は、関東を代表するアユ釣り場です。毎年解禁日には大勢の太公望が訪れ、自然の中でのひと時を楽しんでいます。



自然

身も心も洗われる那珂川町の温泉
温泉に浸かりながら見る夕日はまた格別



馬頭温泉郷

小口地区を中心とする馬頭温泉の源泉の発見は万延元(1860)年と言われ、現在も豊富な湯量を誇っています。

泉質はアルカリ性単純温泉。「美人の湯」としても有名で、おすすめはなんと言ってもその眺望。那珂川に沿って点在している温泉は多くが西向きであるため、そこから眺める夕焼けはまさに絶景で、「夕焼け温泉郷」とも呼ばれています。



馬頭温泉郷の夕日



ゆりがねの湯 露天風呂

那珂川町温泉浴場 ゆりがねの湯

ゆりがねの湯は、誰でも気軽に入浴することができる日帰り温泉です。その泉質はアルカリ性単純泉で、肌が滑らかになる「美人の湯」として多くの人々が通う隠れた名湯です。お風呂上がりに食事を楽しめ、町民の憩いの場として親しまれています。

まほろばの湯 湯親館

小川総合福祉センターに併設されているまほろばの湯は、循環かけ流しの温泉です。湯量も豊富で、芒硝泉という珍しい泉質です。動脈硬化症、慢性婦人病、痛風などに効果があるといわれています。宿泊施設もあるため、保養のための滞在もできます。



まほろばの湯

棚田での馬頭琴の演奏を
自分たちが聴きたいから…
試行錯誤しながら続けた11年



ヒロクラフト
 廣田 充伸さん・美千香さん (小口)
 梅平里守人
 大金 茂さん(小口)



[写真左から]廣田 充伸さん・美千香さん・大金 茂さん

那珂川町でもめずらしくなった山の中の棚田に、馬頭琴の奏者を招いてコンサートを開催している廣田さん夫妻。きっかけは棚田の持ち主である、大金茂さんの隣に廣田さん一家が引っ越してきたことが始まりでした。



棚田コンサート

初めて田んぼを見に行ったとき、林を抜けていきなり眼下に広がる棚田の風景に、ひと目で魅了されてしまった廣田さん夫妻。楽しみながら耕作を続けている大金さんの姿にも感じるものがあり、町の有志で開催している「花の風まつり」での工房展開催の時などには、訪れた人へのおもてなしの一つとして棚田を紹介してきました。

その後、平成22(2010)年に馬頭琴演奏者の美炎^{みほ}さんの演奏を聴いた知人がブログに感想を書いた折、充伸さんが「ここは馬頭町だから馬頭琴演奏会をやるのもいいですね」とコメントを書いたのをきっかけに、翌年春にその知人が美炎さんを梅平に連れて来て、馬頭琴を弾いてもらう機会を得たそうです。その時の棚田に響きわたる音が素晴らしく、大金さんは

「生の音なのにスピーカーを使っているんじゃないかと思わせる音量に衝撃を受けた」ということです。

美炎さんに棚田での音の響きを気に入ってもらえた事、この場所が大好きな県外の知人たちの強力な後押しや、地域の人たちの協力も得られたので、同23(2011)年秋に第1回演奏会を開催したそうです。

こうして始めた棚田コンサートは、好評を得て令和3(2021)年で11回目を迎えました。長く続けて来た理由をお聞きしたところ、「棚田での馬頭琴の演奏を自分たちが聴きたいから」と廣田さん夫妻。「地域のみなどで集まる機会がもてるのがうれしい」と大金さん。

何回か続けていくうち、コンサート後にお客様からの、「大自然の中でいい音楽が聞けてよかった」という感想を聞いて、気づいた事があったそうです。それは、棚田を含む里の風景は、ここに暮らしている人たちの日々の農作業などによって保たれ守られているものであって、決して「自然に出来たもの」ではない…。そう感じた廣田さん夫妻は、梅平地区の住民を「梅平・里守人」と呼び、コンサートに訪れた人たちに里の風景を作り守っている人々の存在に気づいてもらいたいと、コンサート開催時には様々な工夫をしているそうです。

今後の活動については、3人とも「みんなで楽しみながら長く続けていければ」ということでした。



コンサートの準備風景



棚田コンサートにて馬頭琴を演奏する美炎さん